

※※2009年1月改訂(第4版)
※2005年7月改訂

日本標準商品分類番号

873121

貯 法：遮光・室温保存
使用期限：外箱、アンプルに表示
※規制区分：処方せん医薬品^(注)
※注)注意－医師等の処方せんにより使用すること

承認番号	15900AMZ00662
薬価収載	1990年7月
販売開始	1990年8月

※※日本薬局方 チアミン塩化物塩酸塩注射液

ビーワン注10mg

BEEONE INJ. 10mg

【禁 忌(次の患者には投与しないこと)】
本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【組成・性状】

販 売 名	ビーワン注10mg
有効成分	チアミン塩化物塩酸塩
含 量	1アンプル(1mL)中 10mg
添 加 物	1アンプル(1mL)中 ブドウ糖50mg pH調整剤
性 状	無色澄明の液
pH	2.5~4.5
浸透圧比	約1(生理食塩液に対する比)

【効能・効果】

1. ビタミンB₁欠乏症の予防及び治療
2. ビタミンB₁の需要が増大し、食事からの摂取が不十分な際の補給
(消耗性疾患、甲状腺機能亢進症、妊産婦、授乳婦、はげしい肉体労働時など)
3. ウェルニッケ脳炎
4. 脚気衝心
5. 下記疾患のうち、ビタミンB₁の欠乏又は代謝障害が関与すると推定される場合
神経痛、筋肉痛・関節痛、末梢神経炎・末梢神経麻痺、心筋代謝障害
5. の適応に対して、効果がないのに月余にわたって漫然と使用すべきでない。

【用法・用量】

チアミン塩化物塩酸塩として、通常、成人1日1~50mgを皮下、筋肉内又は静脈内注射する。
なお、年齢・症状により適宜増減する。

【使用上の注意】

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)
薬物過敏症の既往歴のある患者
2. 副作用
本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。
 - (1) 重大な副作用(頻度不明)
ショックを起こすことがあるので、観察を十分に行い、血圧降下、胸内苦悶、呼吸困難等の異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
 - (2) その他の副作用

	頻度不明
過 敏 症 ^(注)	発疹等

注)このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

3. 適用上の注意

(1) 筋肉内注射時

筋肉内注射にあたっては、組織・神経などへの影響を避けるため、下記の点に注意すること。

1) 筋肉内注射はやむを得ない場合にのみ、必要最小限に行うこと。なお、特に同一部位への反復注射は行わないこと。また、低出生体重児、新生児、乳児、幼児、小児は特に注意すること。

2) 神経走行部位を避けるよう注意すること。

3) 注射針を刺入した時、激痛を訴えたり、血液の逆流をみた場合は直ちに針を抜き、部位をかえて注射すること。

(2) 注射速度

血管痛を起こすことがあるので、注射速度はできるだけ遅くすること。

(3) アンプルカット時

本剤はワンポイントカットアンプルであるが、アンプルのカット部分をエタノール綿等で清拭しカットすることが望ましい。

※※【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：チアミン塩化物塩酸塩

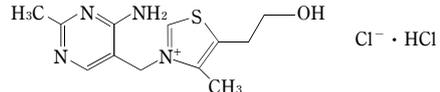
(Thiamine Chloride Hydrochloride)

化学名：3-(4-Amino-2-methylpyrimidin-5-ylmethyl)-5-(2-hydroxyethyl)-4-methylthiazolium chloride monohydrochloride

分子式：C₁₂H₁₇ClN₄OS・HCl

分子量：337.27

構造式：



性 状：本品は白色の結晶又は結晶性の粉末で、においはないか、又はわずかに特異なにおいがある。

本品は水に溶けやすく、メタノールにやや溶けにくく、エタノール(95)に溶けにくく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。

融 点：約245℃(分解)

【包 装】

ビーワン注10mg：1mL×200アンプル

※※【文献請求先】

原沢製薬工業株式会社 開発本部
〒108-0074 東京都港区高輪3丁目19番17号
TEL 03-3441-5191
FAX 03-3445-4779

※製造販売

 原沢製薬工業株式会社
HARASAWA 東京都港区高輪3丁目19番17号